

スタートしました。平成22年4月1日現在、山形県では7カ所、全国で532カ所が認定をされております。

補助制度でございますが、認定こども園に対する補助制度は認可幼稚園や認可保育園に対する従来の補助のみで新たな制度はございませんが、幼保連携型の認定こども園については特例措置として学校法人及び社会福祉法人のいずれであっても、運営費及び施設整備費の助成対象となるということでございます。

それから、清水、はなぞのはどのタイプに属するののかということでございますが、認定こども園構想においては、はなぞの保育園や清水保育園は移管しております社会福祉協議会の判断によりますけれども、保育園型になろうかなというふうに思いますし、児童センターにつきましては地域裁量型に移行するものと考えております。

また、なぜ児童センターが認定こども園と合致するのかというようなことでございますけれども、児童センターも認定こども園につきましても保育に欠ける欠けないというところもなく、一緒に取り扱えるというふうなことでございます。そういうところで同じというふうな認識を持ったところでございます。

子ども・子育て新システムにおきましては、こども園に一体化する構想でございますので、新たな幼保一元化の制度を見据えながら、現在有する保育機能や特色を生かしながら地域ニーズにこたえていけるように検討してまいりたいというふうに思います。

(「大変申しわけないけど、時間ないからまた違うときに聞くから」の声あり)

○小泉良一福祉事務所長 終わっていいですか。

途中でございますが、失礼させていただきます。

○町田義昭議長 10番、高橋孝夫議員。

○10番 高橋孝夫議員 福祉事務所長には本当に申しわけなく思っております、この機会は

必ず設けますからよろしくお願いをしたいと思います。

1つだけというよりも申し上げておきたいのは、やっぱり学区の問題です。現実的に100名を超える子供たちが外に出てるわけですよね。そういうことを考えると、今回またこの事態が進んでいけばますますそういう比率は高くなると思うんです。それではやっぱりこの地域にとっては不幸なわけですし、そういうことはやっぱり県の教育委員会に地域限定型でやるのはだめだということを実あるごとに言っていたきたいということだけ申し上げて、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○町田義昭議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時20分といたします。

午後 3時01分 休憩

午後 3時20分 再開

+

○町田義昭議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木悟司議員の質問

○町田義昭議長 順位5番、議席番号2番、鈴木悟司議員。

(2番鈴木悟司議員登壇)

○2番 鈴木悟司議員 12月定例会の一般質問に際して、私の通告している質問事項は2点であります。質問の内容が蒲生議員、高橋議員と重複するところがございますので、市長以下当局の皆様におかれましては簡潔明瞭なご答弁をお願い申し上げます。

さて、近隣諸国では大きな出来事があった時期でありました。11月23日に北朝鮮が韓国を砲撃するという衝撃的な事件がございました。韓国側も応戦し、朝鮮半島の緊張は一気に高くなりました。隣国での出来事ではありますが、情報収集を怠らず、不測の事態に備えておかなければならないと思います。

県内では、同日の23日にサッカーJ1のモンテディオ山形が京都サンガFCに勝ち、J1残留を決める試合がありました。モンテディオ山形が来期もJ1で戦えることは地域の活性化にも貢献することであり、とても喜ばしいことです。

それでは最初の質問ですが、西置賜地区の高校教育のあり方についてお伺いいたします。

山形県教育委員会は、平成17年3月に県立高校教育改革実施計画を策定しましたが、その中で西置賜地区の高校の再編整備については、少子化による中学校卒業予定者の減少や学校の小規模化が進むことが懸念されることなどから、平成24年度から平成26年度までの検討課題として示されました。

私たちの地域でも、平成21年2月19日に西置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会が設置され、西置賜地区の高校教育のあり方について検討するとともに、地域の中学生及び小中学生の保護者への意識調査や地域関係者からの意見聴取を行い、さまざまな視点から検討を重ねてこられたようですが、検討委員会の設置と検討経過について鈴木管理課長よりお聞かせください。

西置賜地区の高校のあり方についての報告書が平成22年1月に出されましたが、保護者や中高生の方々からはさまざまなご意見や要望があったようです。このご意見や要望を読みますと、再編整備に関する意見については西置賜地区に県立高校をふやしてほしい、多様なニーズにこたえる学校をつくってほしい、西置賜地

区に他地区からも入学するような高校を整備してほしい、地元の高校をなくさないでほしい、再編せずに今の状況を維持してほしいなどの意見がありました。

学科等に対する意見には、西置賜地区には学科の種類が少ない、総合学科を設置するのがよい、普通の県立高校をふやしてほしい、調理師、看護師、介護福祉士など職業につながる学校を設置してほしい、情報や国際などの専門性のある高校をふやしてほしい。高校卒業後すぐ就職することは難しくなっている。大学進学を希望する生徒に対して、普通科の高校の選択肢をふやしてほしいなどの意見がありました。

教育内容に関する意見には、多くの資格や検定などを取得できる教育環境を整備してほしい、学習内容の選択の幅の広いカリキュラムを考えてほしい、就職を考えると資格取得が大切であり、多くの資格を取得できる高校に生徒は集まるのではないかと。社会に出たときの即戦力になる人材を育成することが必要である。基礎知識をしっかりと教えてほしい。希望する高校から就職できるかが心配である。子供たちが自分の力を発揮できる高校になってほしいなどの意見がありました。

その他の意見では、学区制を廃止してほしい、西置賜地区は高校が少なく通学が不便な地区である。少子化はあるが、地域性を考えて再編を進めてほしい。学校があることによりその地域が活性化されるので、慎重に考えてほしい。基礎的な知識を身につけながら、資格を多く取得できる高校の設置を希望する。高校は社会人としての生活態度を育成するような場であってほしいなどの意見がありました。

地域関係者からの意見聴取の中では、どのような整備が望ましいかへの意見ですけれども、学校規模が小さくなると多様なカリキュラムが組みにくくなり、何かに特化していくしかない部分がある。生徒が学校を選択して必要な授業を

受けるというバウチャー制度のようなことは考えられないか。生徒が先生を選択する場面があってもよいのではないか。総合学科にはある程度の学校規模が必要である。設置する場合、生徒と保護者に丁寧に説明する必要がある。再編整備については、置賜地区全体で議論する必要がある。具体的な学校名を出して再編整備について検討すれば、存続してほしいということになる。今ある高校を考えると進まない。どのような人づくりをすべきなのか、どのような学校をつくっていくのかという視点で検討すべきである。西置賜地区には、総合学科はないが、難しい面があると聞いている。総合選択制の高校も同様であり、選択するまでの土台がないと力がかからない。すべての高校を存続させるのではなく、バランスのとれた選択肢が用意された高校への統合であればよいと考える。それぞれの地域に地域密着型の高校を配置することが考えられる。

学校規模は小さくてもよい教育を提供することは可能であるが、大学進学や就職などさまざまなニーズにこたえられるカリキュラムが必要である。複数の専門学科による総合型の高校が理想である。卒業時に身につく力を明確にすることが大切である。総合型の高校を考える場合は、西置賜全体を考えた設置となる。学校配置のバランスは現状でよい。総合学科は何でもありのイメージが強く、魅力がよく伝わってこない。卒業時に身につく力が不透明であると感じている。子供の数が減ってきており、高校を集約していく必要がある。小規模になると部活動の選択も限られてしまい、質の高い練習もできない。ある程度の高校再編はやむを得ない。学校を大切にしたいという思いがあっても、生徒がいない現実もある。西置賜地区は3校に再編し、進学指導を充実させた高校、専門高校、入学してからでも進路選択の自由度がある高校が望ましいと考える。総合学科を設置し、農業系

列の選択科目を設置することが考えられる。学校規模については、1学年4学級程度の学校が3校あれば理想である。各市町村に1校は必要であるという考えは成り立たない時期に来ている。学校がなくなるとは寂しいという情緒的なことは別の問題である。

再編整備するのであれば、決断を下すことも必要である。年次計画を立てて、地域の方々に丁寧に説明して理解してもらうしかない。年次計画を示して、賛否両論をいただくことが必要である。学校規模が1学年2学級であっても、部活動は限られるが、先生方の目が行き届き地域と連携を図ることができるから適正と言える。学校規模が小さくなくても、今ある高校を存続した方がよい。学校配置の検討は、生徒や保護者のニーズに重点を置くべきでなく、地元からの人口流出をとめることなど県や地域に人材力を還元することを考える必要がある。学科については、普通科と専門学科の割合は4対6か5対5がよい。学校が減ると教員数も減り、質の高い教育が提供できなくなる。専門高校をふやせば、普通科高校より教員数を確保できることになるなどのたくさんの意見がありました。

中間まとめに係る地域説明会が平成21年11月18日から11月25日まで西置賜地区の1市3町であったわけですが、参加人数が先ほどもありましたように小国町25名、飯豊町21名、白鷹町92名、長井市では12名だけという状況でした。

その中で、長井市会場での質問や意見の中には、再編整備が終わったときには子供の数がさらに減っていることはないのか。普通高校がふえれば高校卒業後上級学校に進学する子供たちがふえ、地元から離れていってしまうのではないか。西置賜地区の産業界の活性化を担う人材育成を考えた場合、大学等を卒業後地元に戻ってくる環境が整備されているか。地元で就職先もなく、戻ってこれない状況でよいのか。優秀な人材を地元で育て地元で活躍してもらうこと

+

を考えれば、普通科と専門学科の設置比率を考える必要があるのではないかと。3校への再編案のC校について、多様な進路実現を図るのであれば、普通科ではなく総合学科の方がよいのではないかと。山形県では小学校と中学校でさんさんプランを実施しているが、高校で同様の議論がなされたのかなどの意見だったようです。

この意見は、インターネット等で県の教育委員会のホームページで見られるわけですが、恐らくこういった意見があったということ自体もなかなか地域の方々はわかっていらっしゃるんじゃないかというふうに思っています。ぜひ県のホームページをこのインターネットを見ている方々はごらんになっていただきたいと思えます。

このようなたくさんの質問や意見が出されて、平成22年の1月に報告書が策定されました。報告書の中には、具体的に3校への再編、10学級程度と2校への再編、これも10学級程度と書かれておりました。この報告書を見てどのように思われたか、内谷市長と大滝教育長にお聞きいたしたいと思えます。

それに、報告書の中にキャンパス制を導入という新しい形が出てきました。説明では、複数の高校間で連携、交流することにより、生徒の学習や特別活動等に関する教育環境を整備する仕組み、離れたキャンパスで必要に応じた教員が出張授業を行ったり、合同で部活動や社会活動を実施したりすること等が考えられると書かれておりましたが、どのような形になるのかわかりづらく、地域に受け入れられるのでしょうか。キャンパス制の導入をどう考えるのか、大滝教育長にお伺いいたします。

県の教育委員会から西置賜地区の高校教育のあり方について報告書が出され、県立高校の再編整備が進んでいる状況であります。長井市といたしましても、しっかりとしたビジョンを持って取り組んでいかなければならない課題だと

思っております。

長井市の高校教育のあり方についてどのように考えられているのか、内谷市長にお伺いしたいと思えます。

2つ目の質問ですが、県立高校の受験について質問させていただきます。

先月の24日に、県教育委員会は2011年度公立高校の推薦入学と連携型入学の募集人員を発表しました。推薦入学は、全日制と定時制を合わせた募集人員が2010年度に比べ30人程度減の約2,030人で、定員全体に占める割合は23.4%になるようです。これから本格的に受験シーズンに入るわけですが、昨年のように新型インフルエンザが流行しないことを願っております。

現在、山形県の高校進学率は99%を超えています。中学3年生の進路については、受験を経験して県立高校や私立高校に進学するわけですが、今後の高校再編の提案は受験生にも大きな影響を与えるのではないかと考えています。長井市内の子供たちがどのような進路を選択しているのか、大枠で結構ですので長井市内、西置賜、東置賜、南陽市、米沢市、その他に分けると過去3年ぐらいまで把握できれば教えていただきたいと思えます。

それと、置賜地区の県立高校の定員充足率について、過去3年ぐらいのデータがありましたら教えていただきたいと思えます。このことについては、管理課長よりお願い申し上げます。

平成21年5月から6月に行われた西置賜地区の高校教育に関する意識調査の結果を見てみると、中学3年生の68.1%が普通科を希望しており、11.7%が工業科を希望しています。体育科や福祉科や農業科は、どれも約3%ぐらいの状況のようです。中学校の保護者については、63%が普通科、11.3%が工業科、4.7%が総合学科、3.6%が福祉科、3.0%が情報科でしたが、この結果については総合学科や情報科の設置が望まれているのかどうか。小学校の保護者の中

には、看護科を望む方々が5.3%もおりました。この結果についてどう思われるか。今年度の中学3年生及び保護者の進路希望について、把握しておられれば教えていただきたいと思います。このことについては、大滝教育長よりお願いします。

ここ数年、推薦入学に対する中学校の取り組みについては余り積極的に進めている状況ではないように思います。せっかくの推薦入学枠が生かされていないのではないかとこの意見が保護者の方々から出ているようです。特に地元の高校には積極的にご推薦いただいてもよいのではないかとと思いますが、大滝教育長のご意見をお伺いいたします。

最後に、スポーツや部活動で活躍するための指導ですが、ことしは長井工業高校からバドミントンでインターハイや国体に出場という選手たちが出ております。優秀な選手は、私立高校から誘われれば多くの子供たちがそちらに進学してしまう傾向にあると思います。本来、地元で小、中、高校と指導体制を築くことが大切であり、地元の学校で活躍していただくことが学校を盛り上げていくことになるのではないのでしょうか。そして、伝統をつくっていくものだと思います。指導者の養成が必要だと思いますが、この件に関しまして内谷市長のご意見をお聞かせください。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木悟司議員のご質問にお答えいたします。

私の方からは、まず最初の西置賜地区の高校教育のあり方についての報告書についてどう思ったかということですが、報告書にはA校、B校というように具体的な高校名が示されておられませんのでなかなか判断しきれない状況ではございますが、長井高校も長井工業高校も

ともに実績のある高校で西置賜の中心的高校ですので、学校はそのまま残るのではないかと考えておりますし、そうあってほしいというふうに願っております。

全体的構想については、キャンパス制などよく理解できないこともありますが、保護者や生徒アンケート、検討委員会の報告を受けて熟慮した結果であるということはいかがえるというふうに思います。

先ほどから鈴木悟司議員の一般質問の中でも触れられておりますが、さまざまな今回の高校再編については意見があったようでございますが、まず基本に県の教育委員会のお話を聞いていますと、進学を控えた中学生あるいは保護者のアンケート調査などをしますと、普通科を希望する生徒あるいは保護者が多いたということ、残念ながら工業高校等の進路希望は1割ちょっとぐらいしかないということ、それはなぜそうなのかということ、これを考えますと、保護者も、あるいは進学を控えた生徒も、普通科に入るとまだまだ道が広がるんじゃないかと。例えばより待遇のいい企業に入れるんじゃないとか、あるいは自分の希望する職業のために資格を取るのには普通科の方が有利だろうか、そういう多分希望と申しますか、思惑があるんだろうというふうに思います。

そういった上で、じゃあ私たちの長井市にあるこの2つの高校、どういうふうに西置賜だけじゃなくて東南置賜からもぜひ長井工業高校、あるいは長井高校に入りたいという高校にするかということをやはり私どもも県任せではなくて、地元の高校の関係者、あるいは中学校の関係者、私ども市、教育委員会、議会、市民と一体となって真剣に考えなければいけないような状況になってきたのかなというふうに思っています。

西置賜の高校だけなぜ再編されるんだという

ことで、私も11月の10日に県の教育庁からいらっしやった方、あるいは18日に教育庁の方にお邪魔していろんな意見をお伺いしますと、南学区の中で実はもう東南置賜の方の高校は学級を減らしてきたんだと。ということは、ある程度規模のある高校だけしか東南置賜は残ってないといえますか、しかし西置賜については小規模校が3校あるわけですね。1つの学校については分校で1クラスしかない。あと、ほかの高校も2クラスしかない。結局減らせないんですね。そういった中で、もう南学区の中で東南はそれぞれ減らしてきたんだから、西置賜ももう減らすんだということよりも、もう高校自体を統合しようという考えがあったのかなというふうに推測されます。これもいたし方ないことだと思いますが、やはり我々の視点は自分の地域にある高校を守ることじゃなくて、あくまでも長井市の市立の高校でしたら我々の考え方で議会のご同意をいただければいろんなことができますけども、これは県立高校ですので、そういった意味ではしっかりと我々の意思統一を図って、どういうふうになれば魅力ある高校になるのか、少しぐらい遠くても不便でもこの高校に入りたいと思えるような高校に魅力を上げていくのか、あるいは時代の要請とか子供たちの期待に沿えるような高校をつくっていくかということをもう県任せにしていられないと、我々自身がきちんと提案していかなきゃいけない。それをなおかつ市民運動にしないとだめなんだらうというふうに思っています。

前段の高橋孝夫議員、あるいは蒲生光男議員の方からもございましたように、確かに長井市としては非常に対応ができてしまったと。慢心があったんじゃないかということについてはごもっともだと思いますが、むしろこれからまだまだ余地はあるだろうと。というのは、これは25年からの計画でして、23年は間もなく受験が始まりますのでなかなか難しいかもしれませ

んけども、24年はまだあるわけですね、23、24と。ですからその間にやはり鈴木悟司議員のいろんなお考えなんかもご提案などもいただきながらしっかりと要望して、それを実現させるような運動をしなければならないと思っております。

2点目のことにつながるわけですが、長井市の高校教育のあり方についてどのように考えているかということですが、ただいま言いましたように長井高校は進学校というふうに言われておまして、長井高校の現在の卒業生は恐らくきちんとした統計がないので、これもやっぱり我々もう一回原点に立って、どういうふうな実態なんだということを調査しなきゃいけないと。その辺は、非常に行政、長井市として甘いなと思います。恐らく私の感覚ですと、長井高校の卒業生の最低でも8割は市外、県外です。2割残ってるかどうかですが、2割も残ってないかもしれないです。それが毎年8割が外へ出ていくわけですから、これは大変な流出であるし、あと地元に戻りたいというふうなことでもじゃあ職場があるのかというふうにいいますと、残念ながらそれにこたえられるような状況ではないというふうに思っています。

よく言われるのは、大学を卒業した、ある程度いろんな職種を選べる、高校を卒業してもそうなんですけども、そういった人口規模というのは30万人以上、あるいは県庁所在地とかそういったところしかないというふうに昔から言われていました。ですから正直なところ、我々3万人都市で大学卒業の人たちの期待に沿えるような職場を提供できるかということは、かなり難しい現状です。しかし、それをそれであきらめてはならないわけですけども、むしろ高校と、あと例えば長井市の現状ですと長井工業高校、非常に地元への就職率も高いんですが、反面、長井工業高校の進学率ももう6割ぐらいですので、結局大学とか専門学校、そういったところ

に行ってるわけですね。この実態から見ると、長井の製造業は中小企業ですけども、それなりの魅力ある、これから伸びる可能性のある企業がたくさんあるというふうに思っています。それらについて、我々行政もそうなんです、商工会議所もそうなんです、やっぱり学校とかあるいはその上の専門学校、大学などと連携して地元で人材を育成する。長井工業高校からそのまま企業に入ってもらい、またその上を目指す子供たちもきちんとここで受け入れられて地元へ就職できる、そういう体制が一番望ましいと思っています。

山形工科短大は大変ありがたいんですが、残念ながら地元の企業の需要には合わないわけですね。ですから短大があるというのは非常に山形県内でも珍しい、我々ぐらいのクラスでは、市だと持ってますけども、それが例えば製造業の機械、電気関係とか、あるいは開発型いろいろな技術の技術者を育てるようなそういった短大であったり、また生産管理とか品質管理できるような、そういったことを学べる専門学校とか短大があれば、もっと本来であれば長井工業高校が生きてくると思うんですね。それが残念ながら山大とか、あとは県外の大学になってしまうというのが非常に残念だなと。実はそこまでやっぱり我々考えていかないと、高校問題というのは非常に複雑で難しい。やはり先ほども言いましたけども、そういった現実と課題と目指す方向、それをきちっとみんなで議論しながら、今度それなりの、地域に子供たちに残ってもらうような、そういう戦略を高校再編とあわせて立てなきゃいけないんじゃないかなというふうに思っています。

最後に、県立高校受験について、スポーツや部活動で活躍するための指導はということでございますが、優秀な選手が私立高校とか、あるいは県で県立高校として山形中央高校に集めようとしていますよね、体育科。時には県外の高校

に誘われ、進学する傾向があるのは事実だと。特に卓球とか最近サッカーとか、結構県外の高校に行ってます。保護者も子供も実績のある高校で自分の力を伸ばしたい、伸ばしてやりたいと思う気持ちもわからないわけではありませんが、できたら地元の高校で活躍していただければありがたいというのが率直なところです。

それにはご指摘のように指導者の問題とか地元の応援とかが必要というふうに思われますが、技術力向上には生涯スポーツ課の方針でもありますので、スポーツ振興審議会等でも検討させるようにしたいと思いますけども、基本はやはりもういろんなスポーツによって違うんですけども、高体連のスポーツでは残念ながら上はなかなか目指せない。例えば大学にスポーツで進学しても、昔は体育会に入った大学生というのは就職率よかったですよ、採ってくれました。しかし、今はそうじゃないですね、現実的には。ですから、本当にそのスポーツで将来身を立てるのかということも難しい時代になってきていると思いますが、その中で必要なのは、高体連といった学校スポーツじゃなくてクラブスポーツのあり方も、将来の方向としてはそちらへ行くんじゃないかと思っています。そんなことで長井も総合型地域スポーツクラブ、そういったものをいち早く設立しながら、市民1スポーツとともに能力のある子供はしっかりとそこで指導者育成、確保、市でそれを支援するというような形をとれないものかなというふうに思っております。これらについても今後スポーツ振興審議会等でご検討いただいて、期待に沿えるように努力したいと思います。以上でございます。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 鈴木悟司議員のご質問にお答えをします。

最初は、西置賜地区の高校教育のあり方についての報告書を見てどのように思ったかという

+

ことですが、報告書を見せてもらいますと、どのような人材の育成が望ましいか、どのような教育内容の活動が望ましいか、どのような再編整備が望ましいかの大きく3点からまとめられています。その中で、総合学科を新設したキャンパス制を導入した3校案と、産業高校と分校を含めた普通高校の2校案の2つの整備案が示されています。

平成26年度の西置賜地区の中学卒業生が559名と予想されている中で、ほぼ100%近い進学率で公立と私立の比を7対3とすれば公立の進学者は約390名となり、西置賜管内の高校へのすべての生徒が志願したとしても、10学級を満たすことができない状態です。

将来の生徒数とかまたは県教委の言う適正規模を考えれば、私はもっと大胆な思い切った高校再編が必要だったのかなというふうにも思いますが、西置賜地区の地域事情、また市や町における高等学校の存在意義を考えれば、1市3町に何らかの形で高等学校を残し、また生徒、保護者の希望の多い総合学科の新設とか将来の統合を見据えたキャンパス制の導入などの案は理解できないこともないなというふうに思っているところです。

キャンパス制の導入をどう考えるかということですが、報告書のキャンパス制については鈴木悟司議員がお話しになったとおりの説明ですけども、正直私も正しく理解しているわけではありません。2つの高校を合わせて適正規模を確保することでの多くのメリットもあると思いますが、教員の移動などでの時間のロスも出てくるだろうし、生徒移動などをどうするか、また教員の配置をどうするか、そういう問題やいろんな課題もあるのでないかなというふうに思います。両校間の綿密な連携、打ち合わせも必要で、それにかかる時間なんかもばかにならないのでないかと思います。初めてのケースで、高校側がどう受け取るかということも問題だな

というふうに思っています。

県教委では、山形県立高等学校キャンパス制設置要綱をつくって実施する予定のようですが、中学生や保護者にキャンパス制によるメリットをわかりやすく十分に説明する必要があるというふうに思います。

県立高校の受験について、中学3年生及び保護者の進路希望についてお答えをします。

看護科を望む方がおられるがどう思うかについてですけども、平成21年4月13日の生涯学習プラザでの説明会の折の質問に、県教委の方では「看護科のニーズがあれば検討委員会で検討する必要がある」と答弁しました。その後のアンケート調査等の結果から、報告書の中では「看護科、福祉科の設置については必ずしも強いニーズは見られませんでした」と。また、「看護や福祉とも高校での資格取得が困難になったことを考慮し、基礎になる教科や科目をしっかり学習した上で高等機関で資格が取得できるような人材育成に取り組む必要がある」と分析しているようです。

過去5年間で、長井市からは北中から平成17年度に1名、平成21年度1名、計2名の方が山辺高校の看護科に入学しています。ここ数年は長井市の看護科への入学者は少ないわけですが、需要の多い大事な職業でありますので、近くで勉強できる高校があれば生徒、保護者の考えも違ってくるのでないかなというふうに思います。

市長の方から蒲生光男議員への答弁にもあったように、今後はやっぱり看護科の設置について要望をしていきたいというふうに考えます。

今年度の中学3年生及び保護者の進路希望についてですが、例年普通高校の進学希望者の数はほとんど変わりませんが、荒砥高校は年度により差があるようです。工業高校、商業高校等の学科については、前年度の倍率によって若干変動があるようです。今年度も、南北両中学校とも11月中の調査では例年と同じような状況を

示しているようでした。

推薦入学に対する中学校の取り組みについてですが、推薦入学については生徒、保護者から希望を受けて、受け入れる高校側の条件もありますので、校内推薦委員会で検討し、校長が推薦することになります。推薦の決定した生徒には、面接や作文の指導をしているのが一般的だと思います。

推薦にふさわしい生徒を推薦するという原則に立って、声をかけることもあるのではないかなというふうに思いますが、推薦でなく試験を受けて入りたいという生徒や保護者もいると聞いています。推薦入学の意義を生徒、保護者によく説明して理解を得ながら進めるように学校の方でもしているんだと思いますが、なお学校の方には推薦入学についての説明を生徒、保護者にきちんとするよう話をしていきたいというふうに思っているところです。以上です。

○町田義昭議長 鈴木一則管理課長。

○鈴木一則管理課長 鈴木悟司議員のご質問にお答えをいたします。

まず最初に、西置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会の設置経過でございますが、県教育委員会におきまして平成17年3月に策定されました県立高校教育改革実施計画で、西置賜地区の高校再編整備については少子化による中学校卒業予定者の減少や学校の小規模化が進むことが懸念されることなどから、平成24年度から平成26年度までの検討課題として審議されました。

平成21年2月19日に、県教育委員会教育長から西置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討についての依頼を受けまして、委員13名から成る検討委員会ということで、委員長に山大工学部長の大場好弘先生に委員長をしていただいた委員会が設置されたところです。

新しい時代を切り開く西置賜地区の高校教育のあり方について検討するとともに、地域の中

学校3年生及び小中学校の保護者への意識調査や地域関係者からの意見聴取を行い、その結果などを踏まえながら5回の検討委員会で内容をまとめ、平成21年11月に中間まとめを公表いたしました。

その後、中間まとめに係る地域説明会、それぞれ1市3町で開催いたしまして、いただいた意見を参考としながら議論を深め、西置賜地区の高校教育のあり方について報告書として取りまとめられております。

続いて、県立高校の受験について、置賜地区の県立高校の定員充足率で、まず長井市内の生徒の進路先と置賜地区の県立高校の定員充足率についてでございます。

進路先についてでございますが、過去3年間の平均でお答えをいたしたいと思っております。

長井市内、長井高校と長井工業高校になりますが約50%、西置賜、ここでは荒砥高校、置賜農業高校の分校、白鷹専修学校で10%、東南置賜では置賜農業高校と高島高校、高島高校の実績はございませんでしたが3%、南陽は南陽高校1校だけでございますが18%、米沢13%、その他、山形市や県外6%でございます。

充足率につきましては、参考指標として過去3年間の推薦内定者を除きまして一般選抜の志願者倍率を見ました。それによりますと、普通科におきましては米沢興譲館、米沢東高校、高島、南陽、長井は1.0以上の充足をしておりますが、荒砥高校、小国は満たしておりません。それから実業高校といいますが、米沢商業高校、米沢工業高校、長井工業高校が年度間で若干、先ほど教育長が申し上げましたが、前年度の倍率の影響が若干あったりしまして上下がありますが、ほぼ1倍、充足しているという状況になっておりますが、置賜農業高校本校と置賜農業高校分校につきましては若干足りない。置賜農業高校の分校につきましては、約半分というふうな推移でございます。

+

ただ、複数の科がある高校につきましては全体平均としておりますので、第2希望など選択により定員を確保しているという場合もございますので一概に言えるところではございませんが、また工業高校や商業高校は前年度の倍率の影響で結構率が変わっているところもございますので、すべての科が満たしていないということでもございません。以上でございます。

○町田義昭議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。

この原稿を書いたのが30日の前でしたので、余り深く内容に入らないで書きましたけども、山形新聞が30日に長井工業が学級1減という部分を公表されましたので、きょうの議会では3名の方々がその辺を十分ご質問されていたと思っておりますけども、私自身、長井工業高校のPTA会長という立場もありまして、市長からはいろいろな情報をいただいております。やはり平県議会議員ともお話ししましたが、ここ数年、長井工業もずっと充足率は十分、ほぼ100%に近い充足率を保っている。そして長井市からも日本一の称号をいただいたり、ものづくり日本一ということで文部科学省からも表彰されて、非常にいい高校になってきております。そんな中でのこういった県の公表でしたので、私たちも非常に驚いているところです。

そんなところで、実際かなり白鷹町や飯豊町、その辺、小国町あたりにも町長さんたちに本来であればまだまだいろいろ議論しておかなければならなかったのかなというふうに思いますけども、やはり少し遠慮していた部分があるのではないかなというふうに思いますけども、その辺、これからの対応としては、本来は県でしょうけども、しっかり話をしていかなければならないのではないかなと思いますけども、市長のお考えをお聞かせください。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 悟司議員がおっしゃいますよう

に、まずやはりちょっと後手に回ってしまったという感は否めなくて、それについては危機感を持ってなかったということは本当反省しなきゃいけない。

ただし、じゃあ何ができたかという、長井高校と長井工業高校についてはこのまま続けてくださいって住民運動するというのもやはり残念ながら現実的には難しかったのかなと。ですから、ちょっと出してくれた感はありますけれども、これからの運動次第だなというふうに思っています。まだ23年度、24年度と2年間の募集状況があると。

それから、幸いにもこれから23年度以降の予算等々も考えることができる。白鷹町のような制度にすると云ってるわけではないんですけども、やはり地元の市として地元の高校に入る、あるいは地元の高校を卒業して長井に就職した際に何らかの支援策をとることもできるんじゃないかなと。

そんなことがまず第1点と、あとは市として、あるいは教育委員会としてぜひ進めたいのが、長井工業高校の学校側は別として保護者側とかあるいは同窓会、そういった支援をする皆様との意見交換ですね、どういったことで意思統一をしてまず要望していくかということが肝心なのではないかなと思っています。平県議会議員とのお話の中では、3学科でもいいんじゃないかと。しかし、その3学科の中にコースを、看護コースとか福祉コースとか、そういったことのやり方もあるということをおっしゃってましたし、あと非公式にいろいろ伺いますと、例えば環境システムとか福祉情報がなかなか年によって定員に満たなかったりするわけですね。ですから、その辺の何か課題もあるというような話もしておられる方はいらっしゃいます。実態はどうなのかということをお聞きしたいというふうに思っております。

ます。

○町田義昭議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。

先ほど高橋議員からもありましたように、やはりとばっちりを食ったのかなというイメージが非常に強いんですね。なかなかこういうこと言いつらいんですけども、荒砥高校を残すために長井工業がとばっちりを食ったんじゃないかという非常にそういうイメージが強くて、私たちもなかなか白鷹町でこんなことを言いたくないんですけども、やっぱりじゃうちらもお金を出して入れるのかどうか。そういった市長今言われましたように「卒業して就職するときには何らかの措置をしましょう」とか、「長井工業高校に入ったらこういうことがあるんだよ」というような大々的にアピールをしていくのかというふうになってしまいますよね。非常にアンフェアな何か結果だったなというふうに思ってしまうところでした。なかなかそれにどうこうというふうには言えないわけですけども、もう少し実際にじゃ来年、荒砥高校を白鷹町さんがお金を出すとすることは、やっぱりちょっとそれはおかしいんじゃないかという、公立高校ですので、きちっとやっぱりお互いいい高校を目指す部分をしていっていかないと、やはり現状はちゃんとつかめないんでないかというふうに言っていたきたいなというふうに思います。

あと、実際今、長井工業という学校は、やっぱり受験じゃあ保護者たちがどういうふうに学校を選んでいるのか。結局は、やっぱり長井高校は進学校ですので、この辺では1番ですよ。やはり成績順という選び方をしているというのが単純な保護者の考え方でないのかなと。長井高校、はい、そこに行けなければ南陽、じゃあ次が長井工業、その後が荒砥か置農みたいな、ずっとそういうふうな親としてのイメージがあります。私自身も今高校生2人いますので、なかなかじゃあ中学校の時代に自分の進路を決

めて進んでいくという子供たちは非常に少ないと思っています。やはりそういった部分をしっかり、この高校は今こういう高校なんですよという部分をアピールしていかねばならないなというふうに私も思っていますけども、逆に長井工業の機械システム科なんかは非常に優秀過ぎて入れないんじゃないかというふうに思われています。逆に、南陽なり高畠から優秀な子供たちが米工じゃなくて長井工業に入ってきています。その子供たちは、長井工業でトップを目指して推薦で大学に行っています。最初からそういうふうを目指して来ている親たちがいます。だからそういった現状もやはり長井の方々を知るべきだと思っています。せっかくの優秀な学科があるのに、そういうところへほかから来てとられている部分があるというのも現実です。

ただ、そういうところも一生懸命私たちもやっつけていかなければならないというふうに思っておりますけども、先ほど推薦入学という部分がおそろかになっているのではないかというふうに申し上げましたけども、実際、去年の電子科ですかね、推薦で入ったのは3人しかいません。推薦の、この前、出ましたけども、大体35%を推薦でとるといような実業高校であればあるわけです。あと、長井高校でも15%は推薦でとるといふうになっているんですけども、なかなか今の中学校を見るとそこに送り出していたいていない現状があるようです。なかなか積極的でない。やはりまだまだ、私、こういう制度があるんだから、まずはしっかりと地元の高校に入れるようにどんどん推薦していただいていいのではないかというふうに思っています。その辺、教育長、どうでしょうか。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 お答えをします。

ちょっと今のと違う件で、荒砥高校の何か補助の関係の話もありました。それによる影響というのが、長井市内の南北中を見ますと、平成

+

21年度入学した子供、これは北中の方ですね、荒砥高校が14名、今の3年生、希望しているのが8名です。長井南中の方も、その補助制度があったときとなかったときではほとんど変わりません。恐らく子供も保護者もその補助制度というのを自分の進路選択の条件にはしてないんじゃないかと。一生のことですからね、そういう余り影響があるのかないかちよっとわかりません。でも、そんな状況です。

推薦入学についてですが、これはさっきも申し上げましたけども、それぞれの高校推薦の条件があるんですね。だれでも推薦していいというわけではなくて、その条件に合って本人も希望する、そしてその条件に合っているという生徒さんを推薦するということになりますので、なかなかそれが合致しないということもあるんじゃないかなというふうに思っています。

ただ、その推薦制度については、やっぱり保護者なり生徒なりきちんと話をしていく。どういう条件なんだというのをきちんと話しするわけにいかないところもあるというところで、非常に微妙なところがあるというふうに思っています。

○町田義昭議長 2番、鈴木悟司議員。

○2番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。

昨年あたりから、推薦制度についてもかなり明確な数字であらわされてきたと思っています。35とか40とかときちっと数字が出てますので、保護者もかなり理解できてきたのかなというふうには思うんですけども、やはりそこをしっかりと、「こういう成績であれば行けるんだよ」、あと「スポーツで頑張れば大丈夫だよ」というふうに押しただけであれば、何か非常に少ない傾向だなど、昨年の結果を見ても。山形県では全体的にそんな傾向なんで、どうも先生方がその推薦をするのを嫌がっているのかなと。結局、その期間が推薦決まってしまうとまだこれから受験をするために1カ月、ほかの子たち

のため、この間じゃあこの子たちどう扱うのかなみたいな、そんな雰囲気があって、非常に先生たちは余り乗り気でないというか、そんな感じがするので、まずはこういう制度がきちっとあるんですから進学をさせてと。あとは子供たちがその学校でどう頑張っていくかという部分だと思いますので、ぜひご指導をお願いしたいと思います。

また戻りますけど、結局今回高校再編を西置賜だけで考えたという部分が非常におかしいんじゃないかなと私も思っております。やはり置賜全体でしっかり高校再編という部分を考えていただいて、実際やっぱり東置賜に通っている子供たちがたくさんおりますので、本来は近いところで勉強できれば一番いいのではないかと。親の負担にもならないですし、ぜひそういう学校にできるよう、市長等もこれから検討できるようにお願いをしたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

散 会

○町田義昭議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時19分 散会